平成 30 年度　自己点検・評価書

佐賀大学

アドミッションセンター

Ⅰ．アドミッションセンターの目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ．領域別評価（組織運営の領域）

観点①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
観点②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

Ⅲ　平成３０年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

Ⅰ　アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下,「センター」と略記）は，平成 19 年 9 月 19 日付のセンター要項に基づき同年 10 月 1 日に設置された。センター長（併任：1 名），専任教員（1 名）及び特任講師（1 名：平成 28 年度より着任）で構成される。センターの目的と業務内容は以下のとおりである。

（新）

【目的】

センターは，入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画，立案等に関すること
3. 高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
4. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
5. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究および活動記録は，年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では,「平成 30 年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし，点検および評価を行う。以下，同報告書は,「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1　入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■　佐賀大学版ＣＢＴの開発と実施

佐賀大学版 CBT のタイプの１つとして，「基礎学力・学習力テスト」に改善を加え，理工学部と農学部の推薦入試Ｉにおいて２年目の実施をした。また，教育学部の英語分野のＡＯ入試Ｉにおいて英語のスピーキングとリスニングの評価するテスト，理工学部化学分野において，実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテスト，農学部の国際・地域マネジメントコースのＡＯ入試Ｉにおいて英語の動画を材料としたテストを新たに実施した。佐賀大学版ＣＢＴの他大学への展開を進めるための広報活動や交渉も行った。

■　特色加点制度の導入

医学部を除くすべての学部の一般入試において，２０２１年度入試より特色加点制度を導入することを決定し，公表した。

■　特色加点管理システム（評価支援システム）の開発

特色加点管理システム開発に向け，学校法人河合塾と協議を重ねてきた結果，書類審査を効率的に実施するための「評価支援システム」の開発を共同で行った。本システムを利用し，理工学部と農学部のＡＯ入試Ⅱ及び一般入試（前期日程・後期日程）において特色加点評価を行った。また，「文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業主体性等分野実証事業」に協力大学に新たに加わり，大学改革の推進に貢献した。

■　「九州地区国立大学アドミッション研究会」の実施

九州地区の国立大学のアドミッション部門の関係者が集い，意見交換をする場として，「九州地区国立大学アドミッション研究会」を開催し，高大接続改革に向けた意見交換だけでなく，上記で示した「評価支援システム」を利用した評価の提案などを行った。

■　英語外部検定試験の改善

平成 30 年度一般入試の英語外部検定試験（4 技能のみ）の実施結果を検証し，換算表の見直しを行うとともに，新たな外部試験を追加した。

■　２０２１年度入試における英語外部検定試験の活用について

２０２１年度の英語外部検定試験の活用を決定するとともに，利用方法としてＣＥＦＲに基づく係数加点方式を検討し，公表を行った。

■　入試安全管理委員会の設置について

入試ミスや不適切な入試運用に対して，適切に対応するための組織として，入学試験委員会の下に「入試安全管理委員会」を設置し，大学のリスク管理を強化する仕組みを導入した。

（分析結果とその根拠）

佐賀大学版ＣＢＴは,「基礎学力・学習力テスト」に加え，教育学部のＡＯ入試Ｉ（英語分野）における英語のスピーキングとリスニングの評価するテスト，理工学部 AO 入試Ｉ（化学分野）において，実験の映像をもとに観察に基づく思考力等を評価するテスト，農学部ＡＯ入試Ｉ（国際・地域マネジメントコース）において英語の動画を材料としたテストを新たに実施されている。これにより,「今後の課題として，佐賀大学版ＣＢＴの次の展開を想定した開発が期待される」という前年度の課題に対応できた。

以上のことから，入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。今後は，CBT 導入の検証等が必要となる。

観点①-2　入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■　各種説明会等の実施
　受験産業等が主催する進学説明会（「報告書」p.201）
　高校や予備校等で実施する大学説明会（「報告書」p.202）
　高校からの大学訪問において実施する説明会（「報告書」p.203）
　九州地区国立大学合同説明会（「報告書」p.203）
　高校教員対象の入試説明会（「報告書」p.168-173）
■　オープンキャンパスの企画・実施（「報告書」pp.205）
■　佐賀大学案内冊子の編集（「報告書」p.205）
■　入試直前説明会（「報告書」p.205）
■　ジョイントセミナーの管理・運営（「報告書」pp.206-207）
■　継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施：（「報告書」p.208）
■　きめ細やかな高校訪問（「報告書」pp.150-167）

（分析結果とその根拠）

高校生，保護者，高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく，オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで，参加者数の増加という結果をもたらしている。また，きめ細やかな高校訪問は，平成２８年度より着任した特任講師により行われているもので，年間のべ 318 校という訪問により丁寧な広報と進路指導現場の最新の情報収集も行っている。平成３１年度入試においても十分な志願者を獲得した。一方，高大連携活動では，従来から実施してきたジョイントセミナーでは，のべ 133 名の教員を高校へ派遣し，高校生が高等教育へ触れる機会を十分に提供している。また，新たな高大連携活動の試みとして導入された継続・育成型の

高大連携カリキュラムでは，教育学部が行う「教師へのとびら」，理工学部と農学部が行う「科学へのとびら」，さらに医学部が実施する「医療人のとびら」に加え，新たに経済学部が実施する平「社会へのとびら」が実施された。平成３１年度からは芸術地域デザイン学部が企画する「アートへのとびら」を新たに実施する計画である。

以上のことから，入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

観点①-3　入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

（観点に係る状況）

平成 30 年度は，以下の調査研究を行った（「報告書」を参照）。

① H30 年度一般入試における志願動向分析（入学試験委員会で報告）
② H30 年度一般入試結果の検証
③ H30 年度入学者アンケート調査実施・分析
④ H26 年度入学者の追跡調査
⑤ H30 年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
⑥ H30 年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析（受講者・高校教員向け）
⑦ 高等学校訪問調査

（分析結果とその根拠）

志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して，客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができている。以上のことから入学者選抜に関する調査研究に関する業務が十分に遂行できていると判断できる。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

（観点に係わる状況）

運営委員会は，「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第１４条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し，入学者選抜方法に関するもの，広報，高大接続，高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。平成 30 年度は，運営委員会が 3 回，入学者選抜方法等専門委員会が 3 回，広報・高大接続等専門委員会が 2 回実施された（「報告書」pp.209-210）。各委員会の構成メンバーは，「報告書」（p211）の通りである。これらの専門委員会の活動を通して，センターの業務が遂行されている。なお，センターの活動等に関するすべての事務は，学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

１．入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
２．入試広報の企画，立案等に関すること
３．高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
４．その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長，副センター長，専任教員，学部の入試委員
企画委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，入試課長
入学者選抜方法等専門委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，入試課長
広報・高大接続等専門員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部から選出された教員，入試課長

（分析結果とその根拠）

定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し，センターの業務を着実に実行していることから，組織運営が十分に行われていると判断できる。

平成30年度佐賀大学アドミッションセンター外部評価者用評価

【評価方法】以下の３段階で評価する
「期待される水準を上回る」
「期待される水準である」
「期待される水準を下回る」

組織運営の領域における評価および判断理由

【観点①-1】
（評価）「期待される水準を上回る」
（判断理由）
「佐賀大学版ＣＢＴ」及び「特色加点制度導入」の導入を確実に進めているとともに，ICTを活用した評価システムとして特色加点管理システム（評価支援システム）を本稼働させるなど先進的な取り組みが確認できる。また，「九州地区国立大学アドミッション研究会」の開催によって，九州地区の高大接続改革の原動力になっている。一方で，入試ミスや不適切な入試運用に対応する新しい組織として「入試安全管理委員会」を設置され，大学のリスク管理の強化がなされた。
以上のことから，入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援について，期待される水準を上回っていると判断できる。

【観点①-2】
（評価）「期待される水準である」
（判断理由）
高校生，保護者，高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく，オープンキャンパスの内容の充実化を図ることで，参加者数の増加という結果をもたらしている。また，特任講師による高校訪問は，年間のべ３１８校というきめ細やかな訪問活動が行われており，丁寧な広報と進路指導現場の最新の情報収集がなされている。一方，高大連携活動では，従来から実施してきたジョイントセミナーの継続的実施に加え，継続・育成型の高大連携カリキュラムである「教師へのとびら」「科学へのとびら」「医療人のとびら」に加え，経済学部の「社会へのとびら」が実施された。また，芸術地域デザイン学部においても平成３１年度から「アートへのとびら」の導入が決定されており，積極的な高大連携活動が展開されている。
以上のことから，入試広報や高大連携活動に関する業務が期待される水準であると判断できる。

【観点①-3】
（評価）「期待される水準である」
（判断理由）
志願者動向やアンケート調査の分析および入試データ分析などを通して，客観的なデータに基づく議論を行うための資料の蓄積ができている。また，研究の領域でも十分な研究が実施されていることが確認できる。
以上のことから，入学者選抜に関する調査研究に関する業務は，期待される水準であると判断できる。

【観点②】
（評価）「期待される水準である」
（判断理由）
定期的かつ必要に応じて運営委員会および専門委員会を開催し，センターの業務を着実に実行していることから，組織運営が十分に行われている。
以上のことから，センターの組織運営について，期待される水準であると判断できる。

外部評価者：九州大学人間環境学研究院 教育学部門 准教授

氏名 木 村 拓 也